

第 4 2 回
神 奈 川 県
美 術 展

T h e 4 2 n d K a n a g a w a A r t E x h i b i t i o n 2 0 0 6

第42回 神奈川県 美術展

The 42nd Kanagawa Art Exhibition 2006

1期展 [工芸・書・写真] 平成18年9月13日(水)-9月24日(日)

2期展 [平面立体] 平成18年9月27日(水)-10月8日(日)

会 場 神奈川県民ホールギャラリー

厚木巡回展 平成18年10月12日(木)-22日(日)

休館日：10月17日(火)

会 場 厚木市文化会館展示室

主 催

神奈川県美術展委員会

神奈川県民ホール

神奈川県

共 催

(財)厚木市文化振興財団

協 賛

(財)神奈川県美術奨学会／(財)はまぎん産業文化振興財団／

(学)大塚学院／神奈川県文具事務用品団体連合会／(株)ニコン

後 援

神奈川県市長会／神奈川県町村会／神奈川新聞社／NHK横浜放送局／

テレビ神奈川／TVKエンタープライズ／FMヨコハマ

ごあいさつ



芸術の秋を迎え、今年も多くの皆様から創造性あふれる作品をご出展いただき、
こうして神奈川県美術展を開催できますことを、主催者の一員として大変うれし
く思います。

今年第42回を迎える本美術展は、昭和40年の第1回展以来、神奈川にゆかりの
ある方ならどなたにでも出品していただける美術展として、また、芸術家を志し、
日々研鑽を積まれている方々がその成果を発表する場として、県民の皆様に親し
まれてまいりました。これまでに多くの方々が本美術展での入選をきっかけに
大きく羽ばたいていかれた歴史を持ち、その水準の高さは、全国に誇ることがで
きるものです。

今回も、平面立体、工芸、書、写真の各部門を合わせて1,871点もの応募作品の
中から厳正な審査を経て選ばれた素晴らしい作品が展示されています。ご来場の
皆様方には、その芸術性の高さ、着想の豊かさに新たな感動を味わっていただ
けるものと思います。

近年、私たちの心に潤いと安らぎを与える文化芸術への関心がますます高まり
を見せる中、本県では、県民の皆様とのパートナーシップを大切にしながら、誰
もが身近なところでそれぞれの個性に応じた多彩な文化活動を行うことができる
環境づくりに取り組んでいるところです。この美術展を通して、県民の皆様の文
化芸術活動がより一層活発となり、個性豊かな地域文化の発展の契機となること
を願ってやみません。

最後に、このたびご出品いただきました皆様の創作への熱意に深く敬意を表し
ますとともに、本美術展の開催に当たりご尽力いただきました関係の皆様にご心か
らお礼申し上げます。

平成18年9月13日

神奈川県知事 松沢 成文

ごあいさつ



神奈川県美術展は、本県における美術の普及振興をはかり、県民文化の向上と作家の育成に寄与することを目的に、昭和40年に始めました。県内随一の公募美術展として、広く県民に親しまれ、また新進作家の登竜門として、これまで多くの優れた美術家を輩出してまいりました。このことは、ひとえに、多くの皆様のご尽力の賜物と心より感謝を申し上げます。

今年の第42回展では、平面立体、工芸、書、写真の全4部門に1,068人、1,871点の応募があり、各部門の厳正な審査の結果、506人、568点の作品が選ばれました。ここ数年、応募者数も増えてきており、今年はより多くの方々が入選されております。

この神奈川県の文化、風土は、先人たちの長い創造の時間によって作りあげられてきました。人が美術作品を創造する時間というのは、人生を作りあげていく大切な時間であると思います。ご応募いただいた全ての皆様の制作にのぞんだ多くの時間、想いに敬意を表したいと思います。そして、これからもこの県美術展において、盛んな切磋琢磨、交流が行われ、新たな時代を切り開く美術作品が生まれることを祈念いたします。

なお、この度の展覧会で厳正かつ丁寧な審査にあたられた審査員の皆様と、県美術展の運営に専門的な立場からご助言をいただいた県美術展委員の皆様に厚くお礼を申し上げます。

また、特段のご支援を賜りました財団法人神奈川県美術奨学会様、財団法人はまぎん産業文化振興財団様、さらに、各賞を賜りました学校法人大塚学院様、神奈川県文具事務用品団体連合会様、株式会社ニコン様、そのほか関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成18年9月13日

神奈川県美術展委員会委員長 原 範行

受賞作品目録

工芸

大賞	岡本 明子	浜松市	COBALT BLUE	染色
準大賞	梅田 千晶	鎌倉市	層文様漆革器	革
特選	石川ヤイ子	厚木市	からすうり	日本刺繍
特選	池田 節子	相模原市	遥	染織
特選	今林三恵子	横浜市	Turning Point	彫金
特選	高津潤一郎	三浦市	亜鉛結晶釉大皿	陶磁
美術奨学会賞	西山 晴恵	横浜市	Indian Summer	七宝
美術奨学会賞	岡崎まりこ	横浜市	MASK	人形
大塚学院賞	みつとみ さよ	川崎市	えん	染色

書

大賞	宮脇小夜子	平塚市	秋登宣城謝朓北樓
準大賞	佐藤 青園	藤沢市	馬王堆帛書・五十二病方
特選	青山 静月	相模原市	桐江 其五
特選	伊藤 青光	逗子市	金槐和歌集より
特選	青木 湘堂	鎌倉市	蛙埜寧の春想二句
特選	井澤 洋高	鎌倉市	陶潛詩
美術奨学会賞	安藤 憲翠	横浜市	古今和歌集
美術奨学会賞	野頭 莊雲	相模原市	鳴砂山
神奈川県文芸事務用品団体連合会賞	中町 祥紀	横浜市	李白詩 秋浦歌

写真

大賞	商 家訓	横浜市	路傍の華（3枚組）
準大賞	馬場 吉康	横浜市	金粉ショー（3枚組）
特選	野沢 敏晃	鎌倉市	つれてって！
特選	大久保忠宏	横須賀市	或る造形（3枚組）
特選	桐畑 政義	川崎市	「祭」好き（3枚組）
特選	市川 雅章	横浜市	若者たち
特選	沼田 充弘	横浜市	ゴール
特選	福居ヒロミ	横浜市	愛LOVE遊（3枚組）
美術奨学会賞	中山洋之助	横浜市	街（3枚組）
美術奨学会賞	栗栖佐保子	横浜市	漁港閑日
ニコン賞	原田 健児	横浜市	花の終り（3枚組）

※美術奨学会賞は、(財)神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に給付される奨学金です。

※大塚学院賞は、(学)大塚学院から工芸部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※神奈川県文芸事務用品団体連合会賞は、神奈川県文芸事務用品団体連合会から書部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※ニコン賞は、(株)ニコンから写真部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※市区町村名は現住所です。

入選作品目録

工芸

石成 富榮	泥彩練上扁壺
糸井惣四郎	縄文譜＝北狐三耳壺
小野澤道子	かざぐるま
山口 迪子	秋薔薇
小竹 章子	黒釉花器
戸樋谷良充	夕靄
古家 郁子	花のうつわ
北原ふみ子	凜
岡田 光子	初冬
海上 文夫	柱石
吉岡 末子	着物「春のほほえみ」
山崎 直子	魚紋 組み鉢
田中 成士	黄瀬戸草文組皿
宗像 昭	溶化化粧輪花大鉢
榛沢 一明	茶入
原田 克治	自然釉大鉢
金子 明子	和（なごみ）
原 千鶴子	日本の自然 きずけ咲く（夏）、有明の月（秋）
岸 誠	炭化象嵌花器
豊長 豊	花器
石井 力	青磁花器
郷田 和子	二羽鶏（彩泥鶏壺）
天野 正己	繰巡器
佐藤 智子	刻一刻 ー現在進行形ー
宮崎 恭子	色泥扁壺
金子三女子	野草染 凌霄花
神田みゆき	SHIKAKU/雲
関根ななみ	秋さり衣
五十嵐通代	A氏
福岡 貴矢	時点
田中 秀男	黒の魅惑
齊藤 芳江	追想
佐藤 幸子	Blue hour
松尾 護	炭化焼締花器 風船
鶴岡 弘	「夢の稜線」 乾漆造 花器
藤村 公子	悠久の想い
代田 幸江	布目盛器
飯田登美子	多用箱 初春から初秋まで
小川 迪子	LAND SCAPE 景観

佐藤のり子	四季の森
鳥海 正次	備前 水指
大槻 洋介	peep
川嶋 良一	葉文角花入
井上美佐子	流星
鎌田 澄江	風と鳥
佐藤美津子	ふじ
栗本 玲子	初夏
深野 怜	布染菱文壺
重森 勘二	竹編様花入
稲葉里き江	sing a song
中島智恵子	アコヤ貝のハーモニー
西前 力	筒型 水指
宮崎 純子	しずく
三橋 廉央	思い出誘発臭
秋吉 勝己	志野 花入れ
古郡 良秀	葉文蓋
西山 武	伊羅保釉線条紋壺
大野 澄子	triangle.motif
井上 恵介	樹皮紋灰釉丸壺
高橋 桂子	金魚の語らい
高橋 富子	はるかキルバス（集う ちょうちょう魚）
岩谷しげ子	ざくろ
土屋 祐康	象嵌丸文花器
小野 誠	太陽色
天野 雅史	角盛皿
高橋 英昭	頂
菅 剛	雑木林のライラック
曽根原 緑	緋飾布
植草 稔	夢舞
そのべよしこ	海にただよう
田中 康子	思い出の風
山本 真郎	鉢
久保寺春男	備前「壺」
松本 道子	岸辺の木立 II
吉原 和司	花器
夏井美智子	はる
山田 欽也	布目草花文皿 “サンセット・アメジスト”
水橋さおり	爽快！

小林 忠生	かんぞうく 蓮玉
村田 淳	RAIN-BOW
真貝 竜一	ツラヌケ
水野 景敬	MADE IN OKINAWA 2 鉄条魚紋大皿
赤井 哲男	新（さら）の照明
寺本沙香江	夢楽
佐野 伸司	自然釉大壺
鎌田 知幸	水指
市原富士子	ジュウリー
宮部 禮子	大空に奏でる
高田 律子	練り上げ手壺「空」

書

松本 亘正	蘇東坡詩
小林 廣洲	雨
日吉 青溟	四言句
大澤美佐子	かげ
並木 瑞乃	小倉百人一首
宮田 静鏡	中務集抄西行筆
岡本 光草	やまのまに
加藤 心圓	百人一首より
花園 睦子	源氏物語
宮川 昌翠	趙汝燧の詩
大場 法翠	宿雲門寺閣
竹田 晃堂	新古今集より二首
長谷川清邦	和歌三首
高山 畦亭	和歌四首
弦間 秀僊	和歌二首
川手 敬湖	啄木の歌三首
鈴木 堅心	蘇東坡詩
田中 春暉	五言二句
池上 恵峰	やしの美
岡村 香酔	杜甫詩
露木 静舟	去越州
森 秀麗	歸舟載茉莉珠蘭數種際晚香氣尤烈以酒賞之
勝呂 清香	擬陶彭澤
吉川 理芳	秋日送客至潛水驛
小山 淡香	十七夜月
二瓶 香苑	九江
深見 萌彩	石溪看桃花 雪後張稼村農部邀飲廷青閣望西山同茶農作
柿沼 柏苑	雜詩
二瓶 祥舟	田園雜詩
葛西 虚舟	庭桂始得消息
吉永 幽徑	春日齋中即事
奈良 静桜	陶淵明詩
長谷川清陽	庚子歲五月中從都還阻風於規林
鶴岡 慎舟	早発巢県暮宿金城寺
向後 瑛舟	宮中行樂詞
水川 小舟	秋懷
水川 芳竹	雅操
古橋 鯉水	瑞色鮮
穴戸 静黄	述懷

荒川	涼舟	雑詩
小倉	清舟	桐江其一
佐藤	清紫	西陵夜居
横山	聖水	詠楽溪
橋本	紫柳	宿詠公房曉起偶成
兎澤	羊舟	癸卯歲始春懷古田舎二首其二
上村	泊舟	陶淵明詩二首
藤倉	汀雪	清乾隆皇帝七情箴 喜
三谷	嶽雨	朝衡辞国詩並李白哭晁卿衡詩
宮崎	葭瑤	岑參詩
安地	翠石	黄道周詩
町田	祥馥	湖中夜泊效謝體
菊池	祥賀	題余仲揚畫山水図爲余自安賦
松浦奈於子		杜甫詩
山田	裕美	陶淵明詩
川上	麗有	顔真卿 争坐位帖
田辺	談窓	李青蓮詩
富岡	登	鄭風 女曰雞鳴
富岡	真華	北風 擊鼓
滝口	伸葉	田居雜興
早野	芳蘭	王昌齡 從軍行之一
四季	茜歩	蜂と神さま
阪野	鑑	東坡題跋中語
浅間	静江	萬葉集一首
佐藤	溪石	李賀詩
塙	真衣	三十六人集
菅野	知迪	ほのぼのと
赤穂	恭子	よし野山
大江喜幸江		さざ波の
明石	清子	はかなしと
井上	紅峰	山家集より
吉田	青粋	新古今和歌集より
田辺	芳雪	山家集より
筒井	節子	古今和歌集
佐藤	青香	貫之集より
青野	有美	和歌（百人一首）
片山	静苑	（晉）阮籍詩
粕谷	茜	蛩聲秋岸雨 鴻影暮河煙
道脇	晨僊	袁景文詩

菅原	象雲	東澗種柳
山本	紅裳	遣興
松永	光鳳	西行のうた
田中	輝征	五言二句
北見	琢也	飛瀑
新井	雨穿	賊
北見	雨蕙	暨
森田	新菜	吹雪く能登
平出	節子	陶山由利子の歌
松田	紀子	青山照子の句
山本	清子	鑑真の心眼に映る雪
宮地	晶子	菊島美徳の歌
小林	千幸	翡翠色の風
長谷川典子		見付拓の詩 小さな雨のかまくら
山本	枝折	短歌（自詠）
平間	秀慧	雲のゆくへ
山下	恭子	五木寛之 百寺巡礼より
久村	拓司	串田孫一 光の神話より
小倉	清子	縄文連禱
相馬	澄月	朝を愛すより
佐藤	芳舟	かなりや
藤田	純子	For My Pride
鈴木	千絵	白桜集より 晶子のうた
馬場	虹苑	見付拓の詩 春の予感
柴本	華雪	尾崎昭代の詩 五月闇
上野	春海	今川正樹の詩 秋分の日
廣川	心齋	竹中郁の詩 ある夜景
福本	泰子	尾崎左永子の歌
鈴木	玉恵	春になれば
三根喜美子		見付拓の珠洲の海
青野	直子	短歌
小野寺悦子		短歌
山岸	青城	大和は国の真秀らば
森廣	青寿	葉がくれに
原	龍児	李白詩
永井	櫻舟	李白詩
塚田	濤石	石鼓歌 蘇東坡詩
濱野	麗榮	七言詩
西方	右志	書論秦逐客

梅澤	千甫	林泉雨罨魚兜出
菱田	右紫	華好月圓人壽
菊島	右雪	甲骨文
大久保	暁羊	甲骨文
鈴木	青秀	祖詠詩
池田	青柳	白楽天詩
木村	晴雲	劉永之詩
島田	玲花	程德望祠部登月亭
風間	小羊	旅與
竹内	栖涼	桐江其五（吳蘭雪）
高野	幽恵	杜甫詩
加藤	晴葵	司空曙詩
長澤	公雅	早發廬洲途中作
増田	静螢	方朝詩
山本	宵谷	白居易詩
杉浦	右花	白居易詩
茶木	静萌	吳蘭雪詩
岩壁	勇弘	桐江（吳蘭雪詩）
和田	静月	錢秉鎧詩「雪朝偶成」
木下	静朝	獲硯
村木	栄昌	陳文述詩
坂神	深陽	寒山詩
林	堯谷	張九齡詩 目送鶴意有所羨
増木	萌寿	宋之問詩 陸渾山莊
菅井	穂谷	李白詩
塩澤	鷺州	逢坂の関
片山	裕子	いま桜
田辺	翠香	み山路
岡田	珠美	賀 四季 恋の歌
玉井	真知子	百人一首抄
牛山	香流	王建詩 田家行
小原	蒼竹	劉永之詩
庵	蒼淵	周如磐詩
米澤	千松	若菜集
田村	秀亭	李白詩
鈴木	天鳴	宿東林寺
小山	莊雪	過蘇州
村上	湖翠	秋の声
成田	紫鸞	秋の歌

武田	秋陽	とこなつの花
三上	光雲	節臨曹全碑
横山	翠扇	秋の野
飯田	容風	くさの庵
阿部	馨月	撫子の花
小林	堯霞	孫逖詩
浅見	玲湖	奉和聖製途經華岳
飯淵	恵美子	雪に立つ竹
古川	雅鳳	北固晚眺
浅野	青鳳	杜甫詩
松野	翠鳳	李賀詩 十月
代田	翔鳳	梁寅詩
内田	玉鳳	神絃
田村	京子	李商隱詩
神立	佳子	王直詩
小田	明雪	次北固山下
富田	実弥	李頎詩
武田	瞳処	王英詩
斉藤	貴己子	杜甫詩
柴田	李笙	夏目漱石詩
新	景園	袁枚詩
猪俣	貴美枝	賈島詩
土屋	景曄	杜工部詩
長野	菁溪	王漁洋詩
根岸	多江子	李商隱詩
藤野	菁浦	徐渭詩
中村	清園	晨起渡江登五峯過北巖寺

写真

市川 正	飛翔
庄司 精一	愛は永遠に
米山 悦朗	家路
小菅 皇夫	追憶 春（3枚組）
蒲 康夫	想
山口 昌明	休日
新井 証	優しい時間
小田柿雅彦	記憶（2枚組）
五十嵐勲子	霧の朝
大友 洋子	西陽に舞う（3枚組）
花園 睦子	公約
西沢一比古	窓
阪口 智聡	記憶の空間
鬼塚 紀子	参道
佐藤 正美	ご満悦
諸星 又春	あさつゆ
三戸美紀子	廃の挽歌（3枚組）
稲葉 幸恵	世界遺産に住む女女（3枚組）
笹尾 敏子	厳冬
林 大作	花咲く道
羽田 猛	TAMAGAWAの片隅に生きる（3枚組）
宇佐美 明	厳冬の芸術
安達 俊夫	巨樹のわだち（3枚組）
徳重 和子	忘れ潮（2枚組）
遠藤 陽義	瞬間の奈落（3枚組）
牛木 実	京都万華鏡（2枚組）
畠山 英治	愛の語らい
網島 基之	薫風に泳ぐ
元上 徹夫	旅情（2枚組）
内村 雅則	6年目の誕生
竹山 保男	古都点描（2枚組）
鯉登 勝彦	花園でひとやすみ
影山不二夫	闘士（3枚組）
三崎 陽久	水面のゆらめき
大竹 時義	幼鳥の漁
宮坂 駿一	白い家
岡松 桂子	桜雨情
渡辺 脩子	LOOK（3枚組）
安部きよ子	つかの間の輝き（3枚組）
根岸 邦江	落石
須山 明	コラボレーション
鈴木喜三郎	職人の家

今井 純子	エピローグ
漆原 利大	岸壁
仲俣 勝子	厳寒の輝やき（2枚組）
村木 捷夫	廃船煌彩（3枚組）
加藤 心一	船台の業績（3枚組）
井上 隆敏	幽艶（2枚組）
高橋 幸子	夕映のカップル
荒 光男	秋雨
及川 竹男	静寂
佐藤 精一	背比べ
堀坂 和夫	幸せいっぱいの日（3枚組）
吉田 喜久	砂丘（2枚組）
田中 典子	ダブリン・ストリート（3枚組）
佐藤 健司	眼力
伊藤 敏児	ぼくの宝物
土屋 能大	光芒さす
羽鳥 博隆	時の流れに（3枚組）
白崎 裕彦	笑うえい・怒るえい（2枚組）
佐藤 幸悦	休日の埠頭
塚田マサ子	デビュー
竹ノ内多恵子	望郷の詩（3枚組）
米田 繁男	朽木
澤地 弘	街かど
田中 夏	道 -（交叉）
大澤 勇	ライン
大西 紘昭	着水
高木太三郎	留守番役
馬場 純子	飽食 - 薄まっていく日常
乾 ゆり糸	小さな冒険
金親 敏雄	蟹の叫び（3枚組）
村田 和彦	トレッキング
河村 伴江	こわいよ～!!
飯盛 善夫	夢の通路Ⅱ
河津 治	夜明け前
大畑 礼	装いの空間
下井 良一	托鉢
関口 利行	雲霧の朝
新城 英一	幸せがやって来ますように（3枚組）
福田 幸子	女瞳私（イマージュ）（2枚組）
今井 清興	廃線（3枚組）
矢守 笙治	断崖

審査講評

工芸

第42回神奈川県美術展の工芸部門の応募総数は190人、222点。入選点数は98人、98点。そのうち、入賞者は9人（大賞1人、準大賞1人、特選4人、美術奨学会賞2人、大塚学院賞1人）。

受賞作品の選定は、入選作品の中から、審査員の投票によって第1次選考を行って、受賞候補作品を選定し、それらの作品を一堂に集めて、審査員一同から意見が出され、議論が重ねられて、大賞以下の9作品が選定された。

大賞を受賞した岡本明子の「COBALT BLUE」は、幅広い黒の外枠によって、背景となるどのような空間をも切り取って独立させる効果を作り出し、その中に8枚の小パネルを染色・板染め・ペインティング等の技法によって、強いコントラストを作り出した抽象パターンを構成する。その中央に、赤、紫、青、淡青、黒青、黒へと転移してゆく色帯で、縦一直線に左右のパターンを切り裂き、また結合して、一枚の力強い主張をもつパネルに制作している。応募作品の中では、もっとも強い迫力を持った作品で、全審査員が一致して、大賞に推した。

準大賞の梅田千晶の「層文様漆革器」は、一見して木製品を想わせるような色調と構成をみせているが、漆を塗装した皮革の重厚で手堅い技法で制作されていて、その点が好評を博した。存在感の強い作品として印象づけられ、準大賞に選定された。

特選に選ばれた石川ヤイ子「からすうり」、池田節子「遥」、今林三恵子「Turning Point」、高津潤一郎「亜鉛結晶釉大皿」は、いずれも確かな技術と表現力をもった作品であり、もっと上位の賞を獲得できる内容を備えている。とりわけ、石川ヤイ子の「からすうり」は、利休ねずみの染色に日本刺繍の優しいからすうりの葛文様がぴったりとマッチして、品格高い作品に仕上げられた優品である。

池田節子の「遥」の染織作品は、本来平面的な織りの世界に立体的な陰影を生み出して、観る人の関心を魅きつける力強さがある。

今林三恵子の「Turning Point」は、畑のど真中を突走る高速道路の高架橋を、日常的な風景のように、手馴れた彫金技術で表現して、黙々と現代の状況を写し出している。前回は美術奨学会賞を受賞しており、連続入賞

を果たした。

高津潤一郎の「亜鉛結晶釉大皿」は、美しい結晶釉をみごとに作り出し魅力ある技法を破綻なく定着させているが、器形にもう一段の精進を期待する声もあった。

美術奨学会賞は西山晴恵の「Indian Summer」と岡崎まりこの「MASK」の2点、七宝の大作と人形の彫塑的作品に与えられた。ともに魅力ある作品である。

大塚学院賞は、ストッキングの製品を染色してコラーージュし、全く新しい表現を試みて、壁面装飾の「えん」を制作した、みつとみさよに与えられた。

応募作品は、全般的に主張の希薄な、穏やかな作品が多く、平和な時代のデフレ状況が作品に投映されている様子が伺われる。来年度は、もっと元気のある作品を期待したいと思う。

（由水常雄）

書

神奈川県美術展の書部門は、今回285点の出品となり、前年に比し44点の増加となった。

今回作品のサイズを今迄の2×8尺から2×6尺へと変更し、出品数の増加を図った。しかしこの44点の増加は微妙で、或程度成功したともいえるが、満足とはいえないであろう。今後関係者の努力が一層待たれるところである。

作品は漢字、かな及び調和体（近代詩文書）の三種類に大別され、これは今迄とあまり変化はないが、内容において新しい層の出品がみられ、また大字作品も増加する傾向にあり、構成上好ましいものといえよう。

この展覧会を総合書展として考えたとき、今後前衛書や篆刻作品等の幅広い出品が課題となろう。

さて審査は6名（お一人が体調不良により欠席された）で、1点毎に各審査員の1から5段階の評価により行われ、まず入選者は16票以上を得たものし、さらに15票のなかから協議により若干名をとり入れ合計192点とした。

また入賞作品は19票以上のなかから賞候補作品を選び、最終的に9作品に絞り投票を行い、この獲得票数を基本とし、協議により大賞1人、準大賞1人、特選4人、美術奨学会賞2人及び神奈川文具事務用品団体連合会賞1人を決定した。

さて大賞の宮脇小夜子氏は横ものの作品で、故大

島崑山氏の書風を継いでおり、規模が大きく響きのよいタッチで余白が美しい。

準大賞の佐藤青園氏は馬王堆帛書の臨、帛書はもともと小さな文字であるが、これを大きく表現隙のない構成で重厚な作品、今迄の県展にはなかった作風である。

特選に選ばれた4点のうち、青木湘堂氏の調和体、春想二句は漢字とかなとの調和がよく爽やか、見応えのある作品である。

青山静月氏は横ものに11行を配し、練度充分力に溢れ好感がもてる、なかなかのものとみた。

井澤洋高氏の陶潜詩は厚みのある線にほどよい潤渇が作品を引き締めている。

伊藤青光氏は金槐和歌集で横もの、展開のむずかしい流れを上手にまとめ、明るく暢達した線が魅力で連綿も見事。

美術奨学会賞の2点、野頭荘雲氏は県展の常連で見事な筆捌きに感心する。

安藤憲翠氏は古今和歌集からで、古典をふまえ快い線がのびやかで潤渇が美しい。

神奈川文具事務用品団体連合会賞の中町祥紀氏、李白詩を21行に書き緻密に表現して乱れがなく、腕の冴えをみせてくれた。

最後に書の人材は一朝一夕には育たない。永い修練が必要で今回入賞入選された方々に敬意を表するとともに、なお一層のご精進を願うものである。

(仙場右羊)

写真

今回は昨年に比べ、若干増えてはいるが(+22人、+90点)、総応募人数271人、総応募点数912点という応募状況は、全県的な規模のコンペにしてはやはり物足りない感じがする。こうした美術展の中の写真部門という存在に敷居の高さを感じられるのか、コンテストに出品しようとする意欲のあるプロ・アマ写真家が多様化し、多くのコンテストに分散した結果か、あるいはデジタルカメラが当たり前の時代になって写真愛好家の様相が変質しつつあるのか、いずれにしてもこの写真部門をひとつの写真コンテストとしてとらえた場合、他のコンテストと同様の傾向が見てとれる。

それはここ数年、この写真部門の講評でも言及されて

いるように、応募作品の傾向にも現れている。いわゆる花鳥風月的な自然風景、祭りなどのイベントもの、海外撮影ツアーによるものなどが大半を占め、日常スナップ、ドキュメントなどが極端に少ない。

とはいえ、すでにハードの成熟した写真環境の中で、技術的な水準は拮抗している。とくに今回は最初に入選作品を決める段階でかなり時間を割くことになった。審査員の多くに決めかねるという迷いの風情が感じられた。これは裏返せば水準が均質化し、欠点は探せないけれど目を刺激する作品が少なくなっているということでもあるのだが。

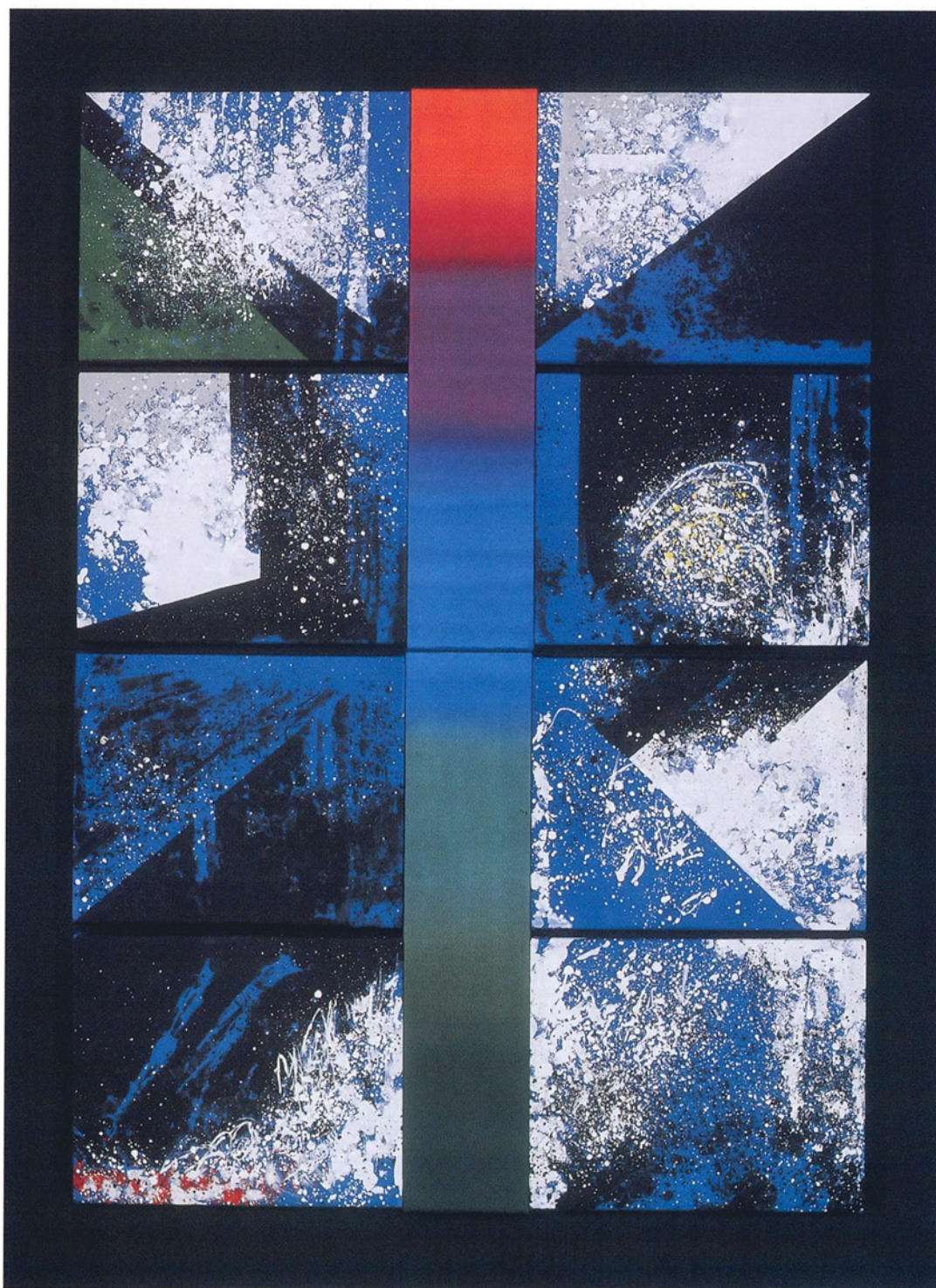
その中で大賞の商家訓「路傍の華」は、過不足なく3点で言い切った作品。ほぼ満場一致で推された。テーマはありふれているが、ことさら対象を強調せず、謳いあげることもないひっそりとした佇まいのカメラワークは、撮影者が自身の眼に揺るぎない確信を持っていることの証明でもある。応募プリントの少し沈んだトーンが見るものの心にジワッと染みこんでくる。

準大賞の馬場吉康「金粉ショー」は金粉を塗られることによって、逆に人間の肌の質感が露わにされるような効果がしっかりと捉えられた。メタリックでクールな精密描写が写真の醍醐味を味わわせてくれる。真ん中に配した1点は、論議の分かれるところだろうが、特別な効果は出ていないという意見もあった。

特選の野沢敏晃「つれてって！」はこれホラー？と作者に聞いてみたくなるような楽しい作品。大久保忠宏「或る造形」はデジタル的色彩をフィルムで表現した面白さ、桐畑昌義「『祭』好き」は祭の楽屋裏に目を向けたユニークな視点、市川雅章「若者たち」は夕陽(?)に照らされた一瞬の光景の忘れがたい美しさ。沼田充弘「ゴール」は絵の中のキーパーが動いているような錯覚を起こさせるシャッターチャンスの妙。福居ヒロミ「愛LOVE遊」にはおそらく演出だろうが、脱力系と呼ばたくなる不思議な魅力がある。

以上、駆け足になってしまったが、当然のこととはいえ、最終的に残った作品からはそれぞれ新鮮な写真的発見を与えられたことを収穫としたい。紙数の関係で他の賞については省略させていただいた。

(前田利昭)



大賞 COBALT BLUE：岡本 明子

染色 161×130cm

〔略歴〕

- 1967年 静岡県に生まれる
- 1989年 大塚テキスタイルデザイン専門学校卒業
- 1990年 神奈川県美術展 特別奨励賞
- 1991年 富嶽文化賞展
- 1997年 静岡県芸術祭 SBS静岡放送賞
- 2002年 日本現代工芸美術展 現代工芸賞
日展入選（～'05）
- 現在 現代工芸美術家協会本会員



準大賞 層文様漆革器：梅田 千晶

革 h38×w35×d18cm

〔略歴〕

1939年 福岡県に生まれる

1962年 日本女子大学卒業

1983年 日本革工芸展初出品 以来現在に至る

最高賞（経済産業大臣賞）2回受賞 その他3回受賞

日本革工芸会会員

1988年 神奈川県美術展初入選 以来12回入選



特選 からすうり：石川 ヤイ子

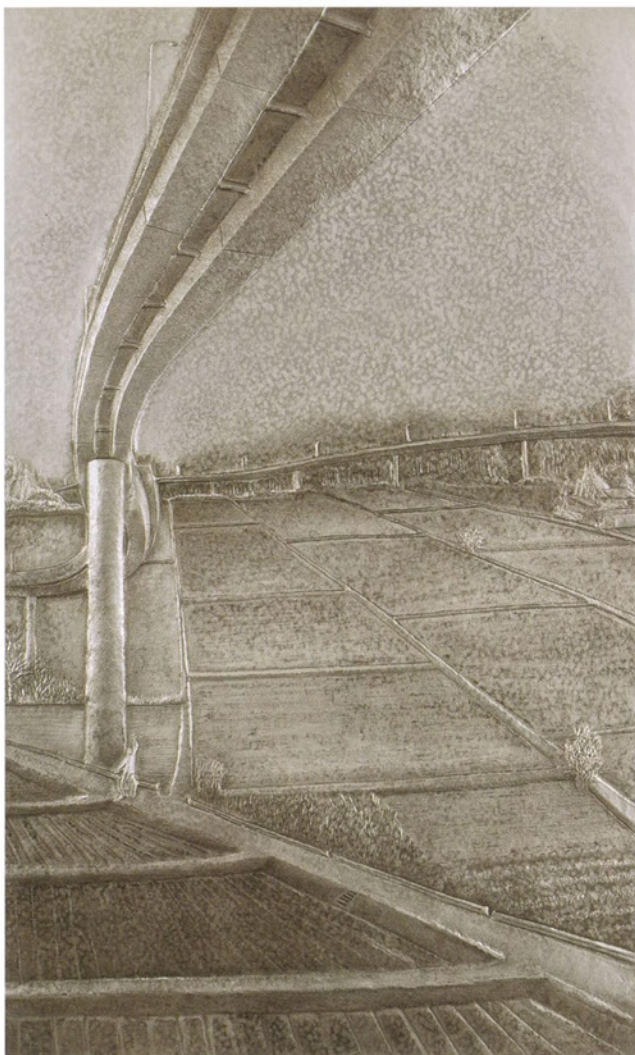
日本刺繍 156×130cm



特選

遥：池田 節子

染織 650×75cm



特選 Turning Point：今林 三恵子

彫金 130×80cm



特選

亜鉛結晶釉大皿：高津 潤一郎

陶磁 直径57.5×高さ6.5cm



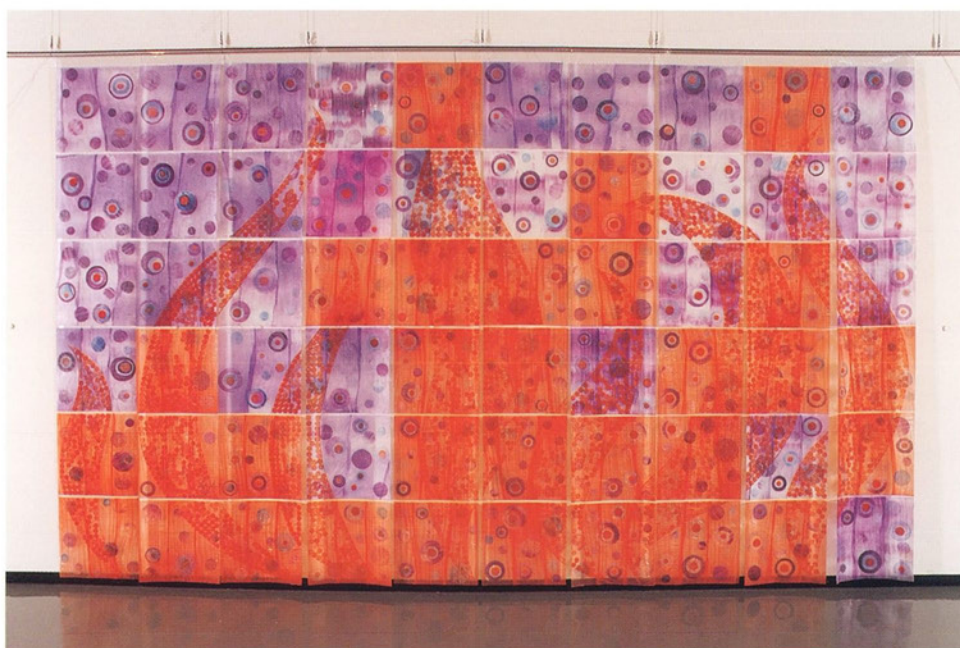
美術奨学会賞 Indian Summer：西山 晴恵

七宝 150×92cm



美術奨学会賞 MASK：岡崎 まりこ

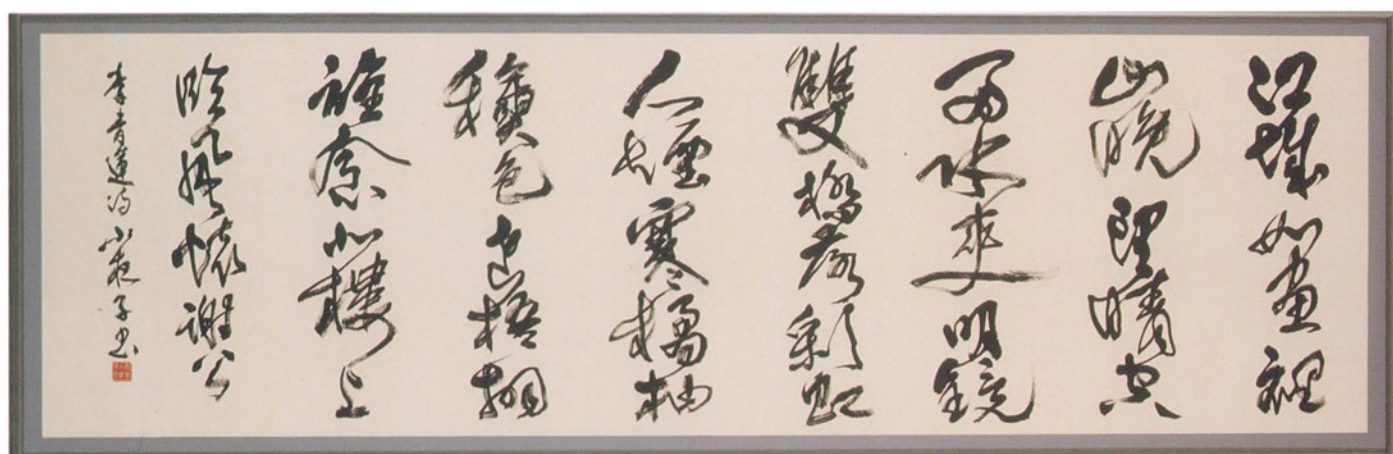
人形 木芯石塑布貼胡粉仕上げ 高さ96cm



大塚学院賞

えん：みつとみ さよ

ストッキングを染色 300×500cm



大賞 秋登宣城謝朓北樓：宮脇 小夜子

61×182cm

[略歴]

1947年 福岡県に生まれる

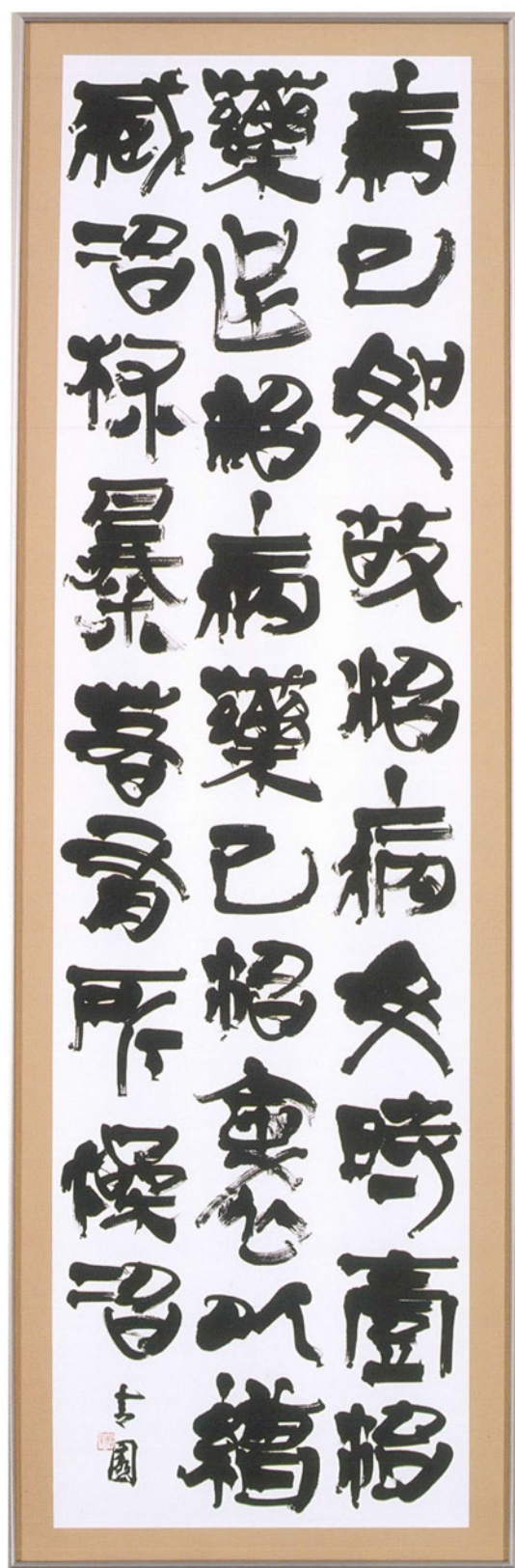
1992年 大島崑山に師事

1998年 大島謙介に師事

2003年 吉田春翠に師事

読売書法展 入選9回

謙慎書道会 評議員



準大賞 馬王堆帛書・五十二病方：佐藤 青園

182×61cm

[略歴]

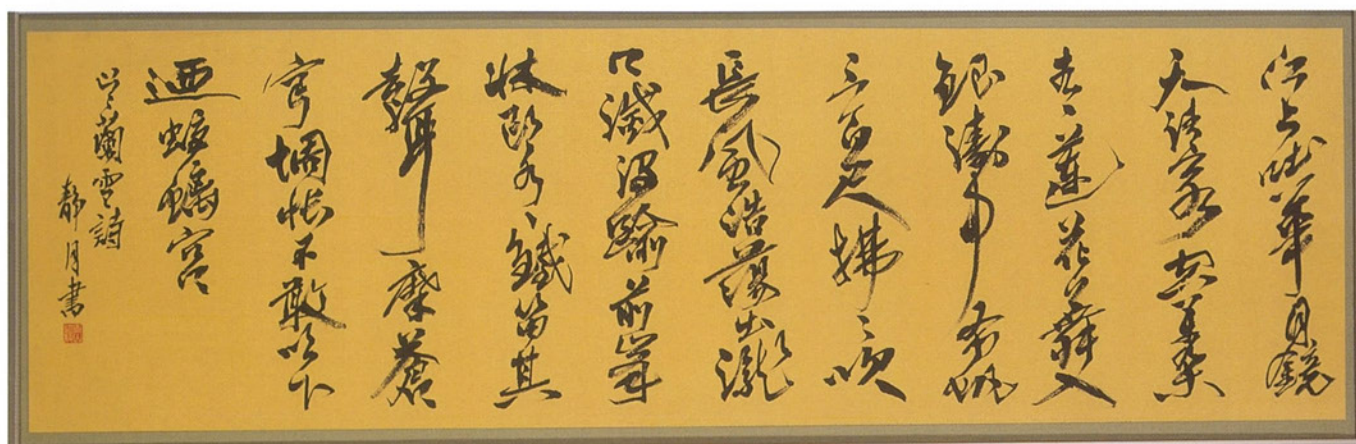
1959年 神奈川県に生まれる

石坂雅彦に師事

読売書法会 幹事

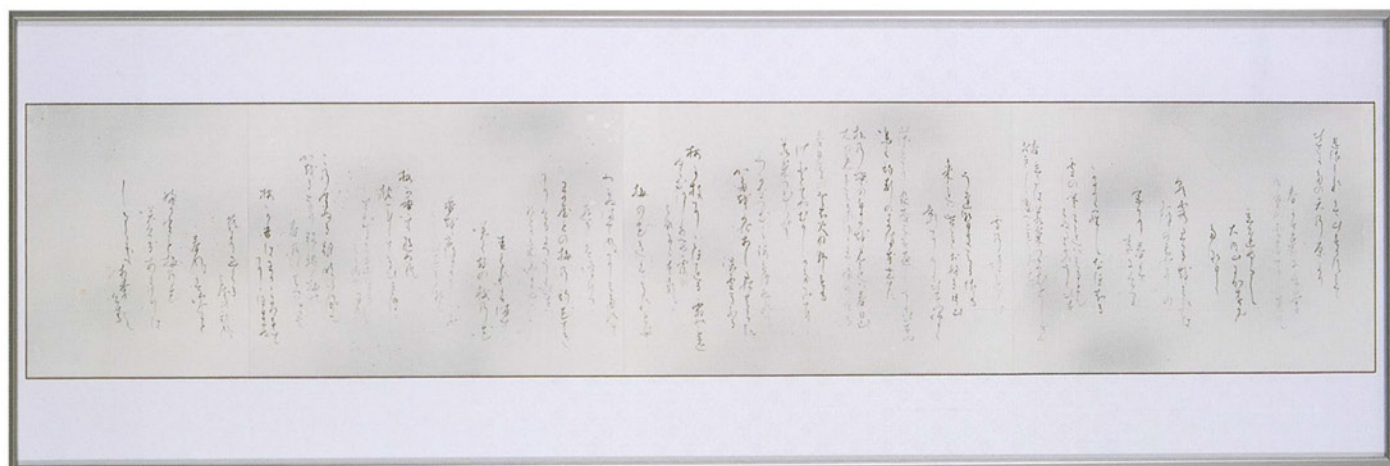
謙慎書道会 理事

三鼎書道会 常任理事



特選 桐江 其五：青山 静月

61×182cm



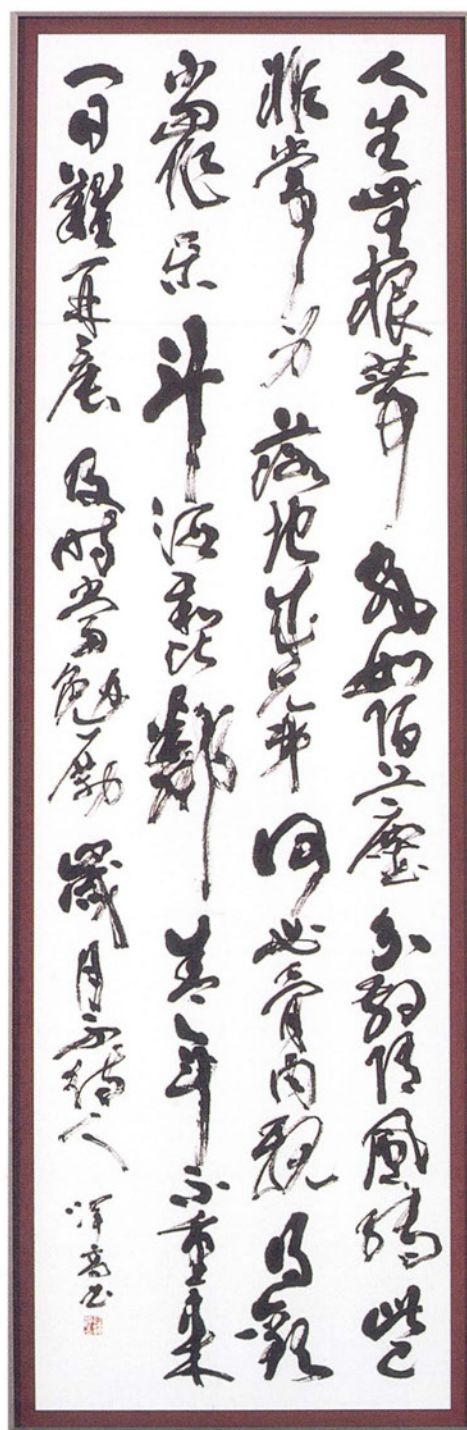
特選 金槐和歌集より：伊藤 青光

61×182cm



特選 蛙越亭の春想二句：青木 湘堂

182×61cm



特選 陶潜詩：井澤 洋高

182×61cm



美術奨学会賞 古今和歌集：安藤 憲翠

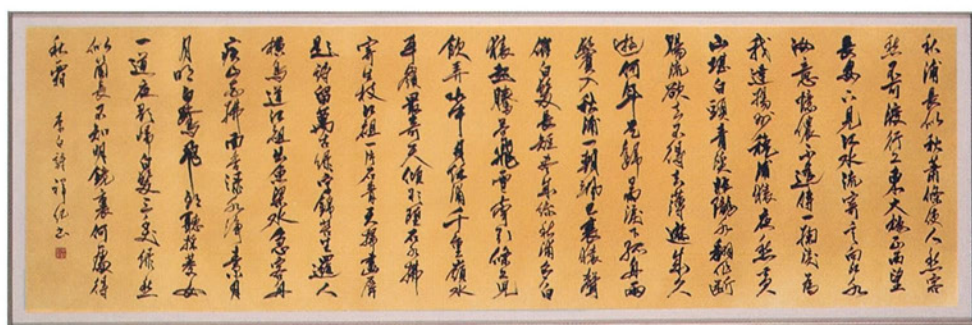
61×182cm



美術奨学会賞

鳴砂山：野頭 莊雲

182×61cm



神奈川県文具事務用品団体連合会賞

李白詩 秋浦歌：中町 祥紀

61×182cm

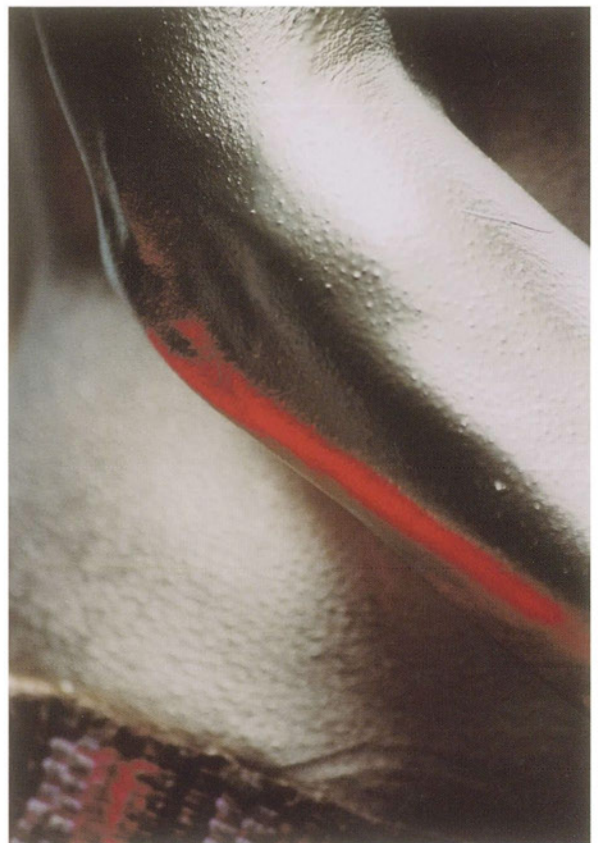


大賞 路傍の華（3枚組）：商 家訓

〔略歴〕

1936年 横須賀市に生れる
 1959年 キヤノンコンテスト特選
 1960年 「アサヒカメラ」年度賞
 日本大学芸術学部写真学科卒
 1960～1995年 アメリカABC、ドイツZDF放送及び内外諸雑誌等で
 報道カメラマンとして従事
 2000年 個展“ヨコハマ・私の心の景”（横浜山手）
 2002年 第25回神奈川報道写真連盟 準大賞
 1999年～ （財）横浜市シルバー人材センター 写真教室講師





準大賞 金粉ショー（3枚組）：馬場 吉康

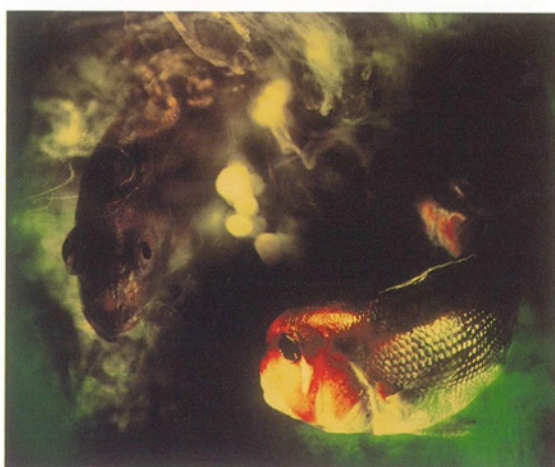
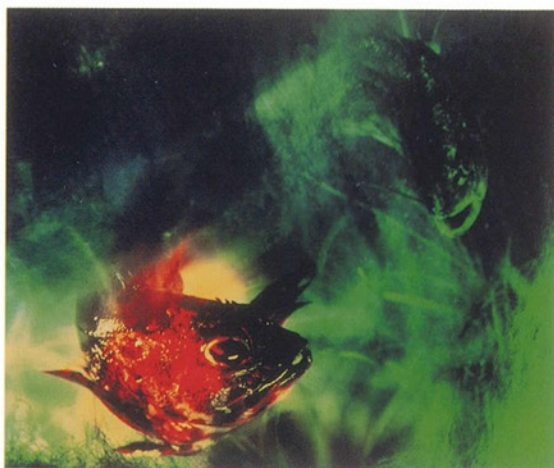
〔略歴〕

- 1937年 岩手県盛岡市に生まれる
- 2001年 定年後の楽しみとして写真を始める
- 2003年 写真教室で学んだ仲間と「横浜フォトフレンド」結成
横浜フォトフレンド第1回写真展出品（ランドマークタワー）
- 2004年 横浜フォトフレンド第2回写真展出品（横浜ダイヤモンド地下街）



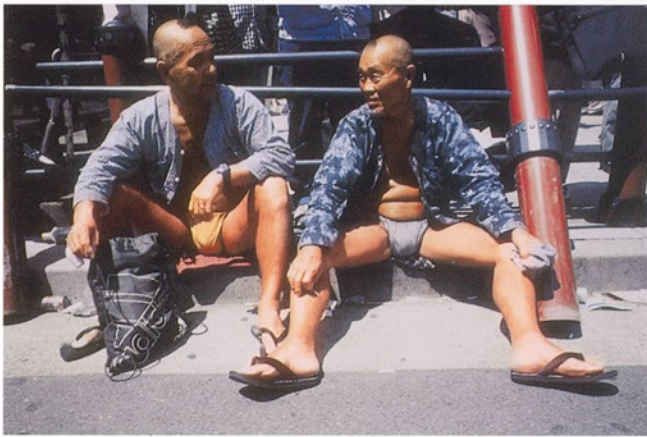
特選

つれてって！：野沢 敏晃



特選

或る造形（3枚組）：大久保 忠宏



特選

「祭」好き（3枚組）：桐畑 政義



特選 若者たち：市川 雅章



特選 ゴール：沼田 充弘



特選
愛LOVE遊（3枚組）：福居 ヒロミ



美術奨学会賞

街（3枚組）：中山 洋之助



美術奨学会賞

漁港閑日：栗栖 佐保子



ニコン賞

花の終り（3枚組）：原田 健児

受賞作品目録

平面立体					
大賞	田中 幹	川崎市	COCOON	立体	
準大賞	植木 庸子	相模原市	おれのぎが	平面	
特選	松木 太郎	朝霞市	No Wind	平面	
特選	飯嶋 桃代	世田谷区	移動と定住	立体	
特選	山口 洋子	相模原市	山になり 川になり 花となる	立体	
県議会議長賞	堀井 寿乃	横須賀市	羊のきもち	立体	
県立近代美術館賞	上林 礼和	川崎市	ゴンドラ溜まり	平面	
美術奨学会賞	原 真吾	横浜市	DAYS -018-	平面	
はまぎん財団賞	六島 芳朗	横浜市	臥竜梅	平面	

※美術奨学会賞は、(財)神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に給付される奨学金です。
※はまぎん財団賞は、(財)はまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に贈られる賞です。
※市区町村名は現住所です。

入選作品目録

平面

関根 稔	どんど焼き（厚木相模川河原）
吉田 光児	日常
満武 京子	Vine
茂野あきこ	母韻（Ⅰ）
杉山 優子	壁
岡本ヒロシ	（笑）・顔（Ⅲ）
村上由紀子	校庭の12時
石井いつ子	ベイ・エリア（ジャーナル）
石河 靖子	欠伸（Ⅰ）
大塚とみ子	響き
吉田 純子	円の方へ 0603
井上 未来	Tomorrow（アムール）
塚越 通生	叢
細谷 和子	太陽たちの行進
大城 勝	day painting 18 "YELLOW"
飯村 優介	カイヘキノトウ Ⅰ
岩瀬 哲夫	忘れられないこと
嶋原 友香	Walking paradise ～宇宙の風に乗って～
原 絢子	私的空間
村杉 哲子	響
竹内 静	木の精
崔 賢徹	造船所の船 Ⅲ
内田 浩正	夏
山田 良絵	栄養摂取
山崎 朋子	自分革命の旅
森田 稜子	貌 C
田嶋 佳子	かくれんぼ
亀山 治代	景 Ⅱ
小林 敦子	LA MÉDITERRANÉE（CORSE）
杉浦 弘昭	声
目黒 敏子	吉瑞（吉兆）
田家ハルミ	夢がたり Ⅰ
浅井敬一郎	滯 ^{おそ}
新恵美佐子	花
大橋 幹	オールウェイズ Ⅱ
成田 圭	思い出のシーサイド
高桑康二郎	幾つもの、もう一つの世界
木村 真彦	'06 陽炎

田辺いづみ	光に浮かぶ
肥沼 守	航海譚 ～ファントム・ペイン氏の旅Ⅱ～
渡辺 幸子	過ぎ去りし日 Ⅱ
志沢 和子	蜃気楼
金城 盛之	ブラインドのある風景
石田 澄江	あなたを感じる
正木 淑子	景 Ⅰ
加藤 嘉晃	光子
角谷沙奈美	Unstable girls often get very angry.
栗原那津子	summer voice
市川 溪	一番近いところと遠いところ
柳瀬あかね	cage
建部ひろ子	ここにある Ⅱ
西尾 真代	室内風景 外光
吉岡友次郎	dull shape
布野 暁子	超時間
西川洋一郎	Prismatic Scape
酒井 雅樹	海の丘のさきに
田口 弘勝	風景 1
新井 幸雄	谷間
関 迪子	コンポジション Ⅱ
小澤はるみ	Intimacy-4℃
細川 貴子	niwa
滋田 明	街の水族館
久保 敬子	オウチヘカエロウ
戸田 哲雄	失意
服部 良美	生成 2
西川 則夫	青い風
鶴賀啓太郎	はじまりの朝
稲本 陽子	VOICE
大田 修司	He ルニア（3）
西国 学	岩のある風景
佐藤 陽	母なる樹
岡田千恵子	うすくまる女
井元 千香	こども世界
青木 志子	ふきよせ
三橋 潤子	Happy☆Birthday
井上 洋介	Re-member

高橋 洋子	空感 I
穂積 千幸	De Kracht van bloemen
野口 英史	EGO
産形美奈子	サボテンの6月
犬塚真由美	Encounter
福井 道顕	角を持つモノ
安田 文夫	LIVE IN SHONAN
朴 寶正	An abyss 06-04
小平 功一	I'm going home
大矢 雅章	アプリオリトワネ05-10R
澤田 サチ	響・そのバランス
中山 智介	ひとり舞台
八木 厚紀	夏至
三津 繁郎	夢の芽
恵木 亮太	二つ頭の鹿
小林孝一郎	女
中村 太一	My mother's landscape
浅野泰恵子	風が運ぶ声 N.16
塩川 彩生	up down
真鍋 修	跡地

立体

大泉 圭史	好優 [hao you]
鈴木 和宏	自分の身は自分で守り (TaTe - chair)
佐藤真紀子	#2 mount
中村 圭	narrator
長谷川友里	繋り
芳本 有希	め・め・め
高 亜美	セルフポートレイト
岡田健太郎	womb recurrence
彦坂 玲子	ひと連ねのころ
内田 充	友紀
越智 彩	宙
速水 洋子	のようなもの
塚本 悦雄	彫刻の種ータコー #9
石橋 貴男	ジャコダン・ナジリク
小池 一馬	円状に囲まれた湖
山本 秀明	A Live Trace (生痕)
稲葉 朗	GOD'S CHILD

平面立体

応募点数は総数452点。個展などの発表形態と異なり、応募者は1人3点以内という応募規定の枠内で作品を見せることになる。審査員も限られた時間内で真剣にそれぞれの審美眼を賭けて推す作品に手を挙げていった。1点の作品によって応募された作品は、審査員のほうもその1点によってすべてを判断しなければならない。2点から3点の複数の作品により応募されたものは、どうしてもそれら2点、3点の連鎖で作品を評価してしまう。つまり、複数の作品で応募したほうが有利かというところともいえず、1人の応募作のなかで作品の傾向にばらつきがあると、何をやりたい人なのかわからなくなり、逆に弱く見えてしまうこともある。自作として何を「選ぶ」のかということが「作る」ということと同じくらい重要なことになっているのが、現代ということなのかもしれない。

大賞の田中幹「COCOON」は、繭のような形体をした大型の彫刻作品である。大賞にふさわしい迫力のある作品で、審査員全員の高い評価を得た。制作日数も相当かかったと思われるその作品は、肝の据わった制作態度を感じさせる説得力のあるものだった。

準大賞の植木庸子「おれのぎが」は、鮮やかな清々しい色彩で眼を惹きつけ、画面の細部を追いかけてゆくと群衆が様々な行動をとっており、絵巻物のように見飽きることのないユニークな絵画である。背景の色面がしっかりと構築されていて、昨今流行りのイラスト的な絵とは一線を画し、堅牢な構造をもつ作品となっている。

特選の松木太郎「No Wind」は、平坦でシンプルな画面構成でありながら、不気味な奥行きを感じさせる秀作である。同じく特選の山口洋子「山になり 川になり 花となる」は、陶による立体作品であるが、形体と表面のテクスチャーがうまく一致して、イメージの拡がり

感じさせる力強い作品となっている。3人目の特選、飯嶋桃代「移動と定住」では、彫刻にはあまり使用されないような素材が複合的かつ効果的に使われている。しかしながら台座の鉄板の扱いにもう少し工夫があってもよかったのではないかという意見もあった。あるいは台座の鉄板はなかったほうがより効果的だったかもしれない。他の立体作品の出品者にもいえることであるが、彫刻と台座の関係性は、現代彫刻にとっては熟考せざるをえない重要な必須の課題である。

県議会議長賞の堀井寿乃「羊のきもち」は、素材の扱いが高度に巧みな作品である。例えば羊の表情や仕草に、恐ろしさや不気味さのようなものまでもが含まれるような方向で、さらなる展開の作品も見てみたいと感じさせられた。

県立近代美術館賞の上林礼和「ゴンドラ溜まり」は、具象的風景の上に抽象的な記憶の残像のような形が重なる作品で、その構成力が素晴らしい。素材や画肌の扱いにも、鍛錬を重ねた作者の実力が感じられる。

美術奨学会賞の原真吾「DAYS -018-」は、ひとつ間違えば画面が破綻してしまいそうな異質な図像をうまく組み合わせて画面を構成しており、挑戦的な意志が感じられる作品といえるだろう。

はまぎん財団賞の穴島芳郎「臥竜梅」は、日本画的な素材を使用しながら、抽象絵画を思わせる作品で、形式にとらわれないその伸びやかな感性に今後も期待したい。

452点の審査を終えてのち、多くの応募作が実に現代的で、県展としては全国的に見てもかなり高い水準にあると思った。

(是枝 開)



大賞 COCOON : 田中 幹

鉄 h100×w400×d80cm 160kg

[略歴]

1982年 川崎市に生まれる

2006年 多摩美術大学美術学部工芸学科金属専攻卒業

多摩美術大学大学院美術研究科博士前期課程工芸専攻金属入学

[グループ展]

2005年 多摩美術大学工芸金属三年展 天王洲セントラルタワー

LOVE THE MATERIAL・銀座Pepper's gallery

2006年 多摩美術大学工芸金属四年展 二子玉川高島屋S・C/ROOF GALLERY

卒業制作展 青山スパイラルガーデン

2005年度美術学部卒業制作展・大学院修了制作展 多摩美術大学

[出品歴]

2005年 第8回エネルギー賞展 銀座東京電力TEPCO館

第41回神奈川県美術展 神奈川県民ホールギャラリー



準大賞 おれのぎが：植木 庸子

岩絵具、膠、麻布 188×226cm

〔略歴〕

1982年 茨城県土浦市に生まれる

2003年 多摩美術大学絵画科日本画専攻入学

2006年 同大学4年在学中

〔グループ展〕

2005年 【ASIAN STYLE VI】

Pepper's Project Exhibition アジアンスタイル展 Pepper's Gallery

2006年 totte e ten 青華画廊

2006年 たまご展 ギャラリー風

〔出品歴〕

2005年 第23回全国絵画公募展IZUBI 入選



特選 No Wind : 松木 太郎

油彩、カンヴァス 194×194cm



特選

移動と定住：飯嶋 桃代

パラフィン h130×w120×d90cm 400kg



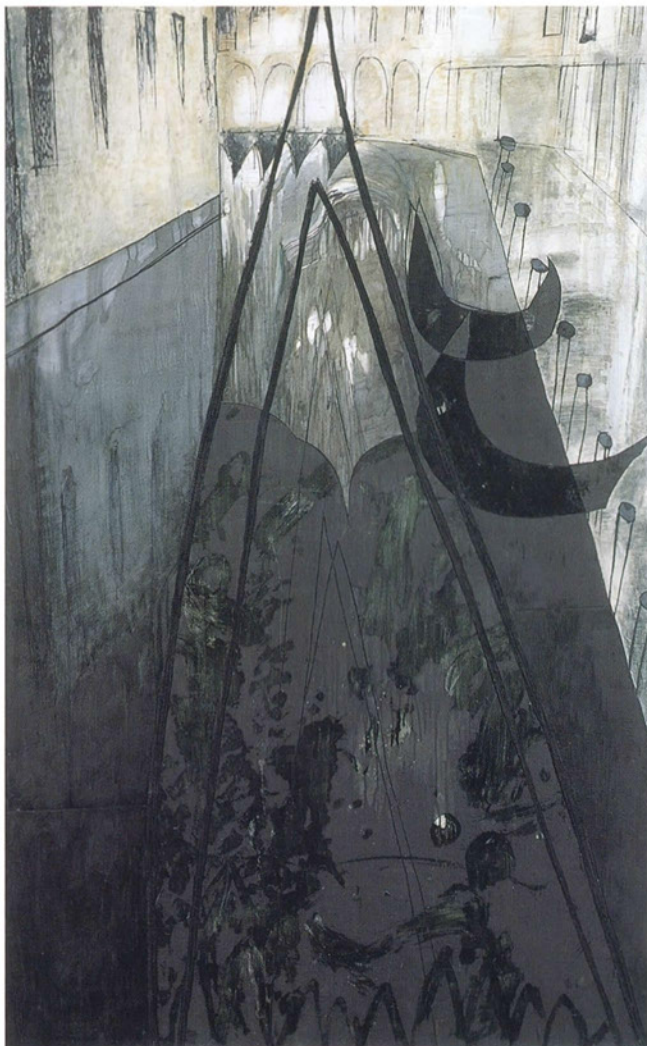
特選 山になり 川になり 花となる：山口 洋子

陶 h132×w500×d150cm 200kg



県議会議長賞 羊のきもち：堀井 寿乃

羊毛、樹脂 h135×w230×d220cm



県立近代美術館賞

ゴンドラ溜まり：上林 礼和

油彩、石膏、木製パネル 194×112cm



美術奨学会賞

DAYS -018-：原 真吾

油彩、木製パネル、綿布
182×227cm



はまぎん財団賞 臥竜梅：六島 芳朗

岩絵具、膠、麻紙 227×191cm

市町村別出品者一覧

	平面	立体	工芸	書	写真	合計
横 浜 市	90	17	71	146	163	487
川 崎 市	24	5	17	17	21	84
横 須 賀 市	15	1	10	14	13	53
藤 沢 市	8	8	9	12	12	49
茅ヶ崎市	7	2	3	8	7	27
平 塚 市	12		4	6	5	27
鎌 倉 市	14		7	25	13	59
逗 子 市	5		1	3	1	10
三 浦 市		1	2		1	4
相 模 原 市	20	20	9	23	5	77
厚 木 市	9		9	3	2	23
大 和 市	6	2	4	2	5	19
伊 勢 原 市	2		1	4	1	8
秦 野 市	4		3	1	3	11
座 間 市	3	4	3	1	4	15
海 老 名 市	4		1	4	3	12
綾 瀬 市			2	2	1	5
小 田 原 市	2	2	8	4	3	19
南 足 柄 市			1		1	2
葉 山 町			1	1	2	4
寒 川 町	1		4			5
大 磯 町		2	2	1		5
二 宮 町			1		1	2
中 井 町			1			1
大 井 町					1	1
松 田 町	1					1
山 北 町						
開 成 町			2			2
箱 根 町						
真 鶴 町	1					1
湯 河 原 町	1			1		2
愛 川 町			1			1
城 山 町	1					1
津 久 井 町	1		2			3
相 模 湖 町						
藤 野 町	1					1
清 川 村						
県 内 計	232	64	179	278	268	1021
東 京 都	12	10	8	6	1	37
その他都道府県	3	1	3	1	2	10
県 外 計	15	11	11	7	3	47
合 計	247	75	190	285	271	1068

市町村別入選者一覧

	平面	立体	工芸	書	写真	合計
横 浜 市	37	4	35	91	53	220
川 崎 市	6	1	11	10	7	35
横 須 賀 市	8	1	4	11	7	31
藤 沢 市	3	3	4	9	5	24
茅ヶ崎市	4	1	1	7	3	16
平 塚 市	6		1	3	2	12
鎌 倉 市	7		5	23	4	39
逗 子 市	1		1	2	1	5
三 浦 市			2		1	3
相 模 原 市	9	4	5	12	1	31
厚 木 市	3		4	2		9
大 和 市	2	2	1	2	2	9
伊 勢 原 市	1		1	3	1	6
秦 野 市	1		1			2
座 間 市	2	2	1	1		6
海 老 名 市	2		1	4	1	8
綾 瀬 市				2		2
小 田 原 市	1	1	4	2	1	9
南 足 柄 市			1			1
葉 山 町				1	2	3
寒 川 町			1			1
大 磯 町		1	2	1		4
二 宮 町					1	1
中 井 町			1			1
大 井 町					1	1
松 田 町	1					1
山 北 町						
開 成 町			1			1
箱 根 町						
真 鶴 町						
湯 河 原 町				1		1
愛 川 町						
城 山 町						
津 久 井 町			2			2
相 模 湖 町						
藤 野 町						
清 川 村						
県 内 計	94	20	90	187	93	484
東 京 都	4	1	5	5	1	16
その他都道府県	3		3			6
県 外 計	7	1	8	5	1	22
合 計	101	21	98	192	94	506

出品点数一覧表

	平面	立体	小計	工芸	書	写真	小計	合計
人数	247人 (101)	75人 (21)	322人 (122)	190人 (98)	285人 (192)	271人 (94)	746人 (384)	1068人 (506)
点数	373点 (101)	79点 (21)	452点 (122)	222点 (98)	285点 (192)	912点 (156)	1419点 (446)	1871点 (568)

※ ()内は入選者数と入選点数

大賞受賞者

第1回	昭和40年度	大森 運夫『九十九里』日本画	第27回	3年度	荒井 正美『蟻の迷走』彫刻 相沢 順一『樹界』写真
第2回	41年度	廣瀬 義男『作品Ⅰ』洋画	第28回	4年度	たべけんぞう『MAGNETIC FIELD92-2』立体造形 中森 万象『郎土元詩』書
第3回	41年度	垣内 治雄『坐る』彫刻	第29回	5年度	王 青『チベットの娘』日本画 平野 朱美『電解ザウルス』工芸
第4回	43年度	川村 直子『'69-A・'69-B』洋画	第30回	6年度	辻 忍『野辺』彫刻・立体造形 八木 香葉『笹澤清明詩 菊』書
第5回	44年度	山井イク夫『Laby70-1・2』立体造形	第31回	7年度	R 津田『封印—過去と未来—』彫刻・立体造形 中田 文『阿弥陀堂釜』工芸
第6回	45年度	伊藤 彬『天涯巡礼』日本画 大久保利園『Straw』工芸 西川 万象『盧子諒詩』書 加賀谷武男『にっぽんNONSENSE ZONE』写真	第32回	8年度	結城 勉『個々の領域—群像Ⅰ』平面・立体 今井今日子『Twilight—黄昏—』工芸 中西 雅舟『百人一首より』書 中谷 晴男『山の民（ネパール）』写真
第7回	46年度	中西新太郎『落日』洋画 島津 碧崙『寒山詩』書 大谷 正夫『師ミス・ザンダー（フェリス女学院）』写真	第33回	9年度	剣持 啓子『SANAGI—予兆』平面・立体 村田 則子『レクイエム』工芸 島田 幸舟『白鳥』書 渡部 満『1.8朝』写真
第8回	47年度	佐々木英夫『人間の風景1・2』版画 林 良達『騎士』工芸	第34回	10年度	笹井 弘『動植物』平面立体 堀口 成依『M!! きみ想う』工芸 大岸 昌子『源氏物語』書 君塚 宣良『還暦を迎える階段』写真
第9回	48年度	河原 明『蜻蛉』彫刻 石川 充宏『Girl in chair』工芸	第35回	11年度	川田 祐子『BIO-PANORAMA』平面立体 斉藤 龍也『白化粧象嵌花器』工芸 稲葉 竹苑『観雨』書 林 京子『午後の街』写真
第10回	49年度	大山 鎮『語り』日本画	第36回	12年度	川城 夏太『BALANCE 2000 No.1』平面立体 『BALANCE 2000 No.2』 深瀬知嘉子『陰翳』工芸 松原 隆『白の風景』書 吉田 陽子『最後の楽園（ガラバゴス）』写真
第11回	50年度	鎌田 恵子『Lost my way』工芸	第37回	13年度	小林 秀幹『静かな流れの中で』平面立体 羽鳥 恵子『彩泥象嵌鉢』工芸 和田 清泉『花にのる』書 福田 幸子『女瞳私1.2.3.（NUDE）』写真
第12回	51年度	泉谷 淑夫『愁傷のモニュメント』洋画	第38回	14年度	高梨 裕理『水面』平面立体 三輪 博子『河』工芸 栃木 郁子『田中冬二の詩』書 嶺岸 良太『far away—いつか置いてきたもの—Ⅰ-V』写真
第13回	52年度	井上 麦『黒の女-77』彫刻	第39回	15年度	井上 達也『植勢Ⅱ』平面立体 小田中 藍『「おやすみ」とは言っても…」』工芸 幡野 恵子『論語』書 金親 敏雄『都市幻影』写真
第14回	53年度	坂田 一之『MIRROR』立体造形	第40回	16年度	坂本 友里『ゆめのかず』平面立体 大槻 洋介『孔』工芸 古屋恵美子『田部井花子の歌』書 内藤 秀和『沈黙の機関（第五福竜丸エンジン）』写真
第15回	54年度	前本 利彦『暗い部屋Ⅰ,Ⅱ』日本画 川口 流坡『菅原道真詩』書	第41回	17年度	三原奈津子『IN MY CLOSET <melting times>』平面立体 尼子 裕美『EXODUS』工芸 中村 晁雲『毛序詩』書 古郡 和敏『原宿寸描（2枚組）』写真
第16回	55年度	和久井Who『HANGING』立体造形 市原 欣一『ふるさと』写真	第42回	18年度	田中 幹『COCOON』平面立体 岡本 明子『COBALT BLUE』工芸 宮脇小夜子『秋登宣城謝眺北楼』書 商 家訓『路傍の華（3枚組）』写真
第17回	56年度	坂井 彰夫『SEISHO』彫刻 高木 参平『BODY』工芸			
第18回	57年度	小泉 正彦『冬の木』洋画 井上 隆敏『イグナドバ選手』写真			
第19回	58年度	井上 麦『土の系譜』彫刻 茶木 静谷『竹鹽松影』書			
第20回	59年度	東谷 武実『日蝕F』版画 西 雅秋『CASTING VIEWPOINT』野外彫刻 林 亘『クリスタル大鉢“洞”』工芸			
第21回	60年度	鶴見 厚子『夢の質感』洋画 石渡 四郎『硫黄島の再会』写真			
第22回	61年度	会田富二男『駆けゆく母子像』彫刻 浜本 艸舟『良寛詩』書			
第23回	62年度	高橋 洋子『WAVE（BLUE FENCE）』立体造形 森山 可余『俳句（原石鼎）』書			
第24回	63年度	三枝 孝司『複製された場所』版画 菅間ゆみい『夢印象』工芸			
第25回	平成元年度	セツ・スズキ『アンタニハワカルメ』彫刻 片岡 順一『大気現象』写真			
第26回	2年度	山本 靖久『時の化石—豊沃のかたち』洋画 高橋あづま『遥かなる亜熱帯』工芸			

プロのために、
プロの品揃えです。



画材／書道用品／製図デザイン用品コーナー

■本店文具館 イセザキ町・本店文具館4F・5F…TEL.(045)261-1231

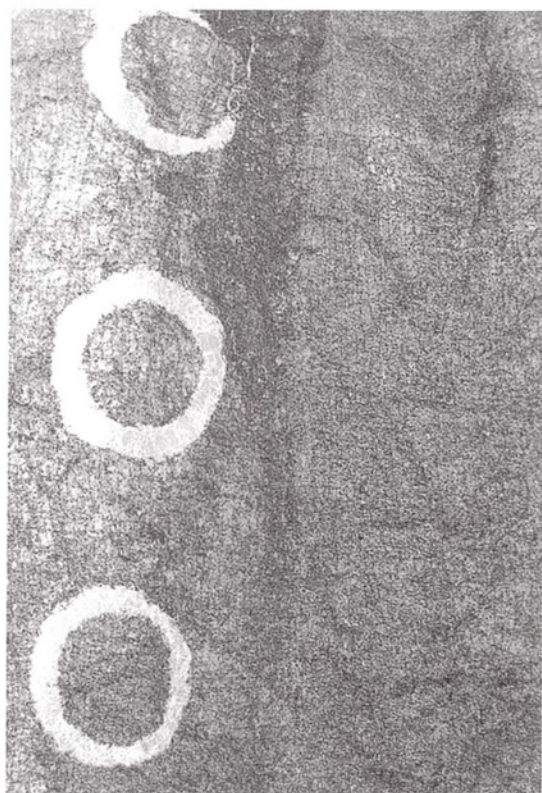
■藤沢店 藤沢駅南口名店ビル2F……………TEL.(0466)26-1411

■厚木店 小田急線・本厚木駅前……………TEL.(046)223-4111

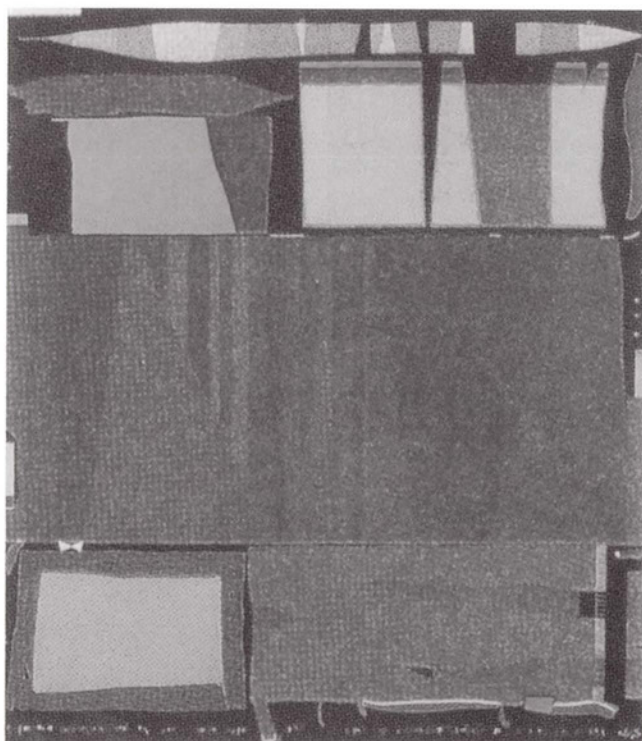
※藤沢店は書道用具・日本画材のみ取り扱っております。

有隣堂ギャラリー〈イセザキ町・本店書籍館B1〉

布の未来を創る



帯瀬由紀子
ジャパンクリエーション2005
燃系部門賞



平野朱美
第37回日展
入選

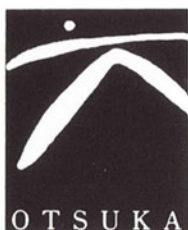
資料・願書無料送呈

学校見学随時

◎入学願書受付 推薦入学 10月2日～1月31日
一般入学 11月1日～3月31日

◆学科構成◆

テキスタイルデザイン科 (昼3年40名)
工芸染織科 (昼2年40名)
友禅染色コース
伝統織物コース
プリンティングデザイン科 (夜2年40名)
ウィービングデザイン科 (夜2年40名)



大塚テキスタイルデザイン 専門学校

(姉妹校) 大塚末子きもの学院 大塚情報処理専門学校

〒160-8560 東京都新宿区須賀町10番地 ☎03(3357)3671 FAX 03(3226)9745

URL: <http://www.otsukagakuin.ac.jp>

E-mail: info@otsukagakuin.ac.jp

ケータイでも資料・願書請求、学校説明会申込可。

<http://www.otsukagakuin.ac.jp/k>

OTSUKA

情報に命を吹きこむ

データベースパブリッシング
マルチメディアに対応
オンデマンドサービス
バリアブルプリント

個人情報をたいせつに扱う

万全なセキュリティ対策
プライバシーデータを保護

環境にやさしい印刷

再生紙・非木材紙
水なし印刷
植物油インキ



あなたの本づくりをサポートします。

「日本自費出版ネットワーク」の会員である野毛印刷の自費出版サービス。

プライベートでつくる本の制作・印刷・出版をお手伝いさせていただき、自費出版サービス。1冊だけつくりたいという方から本格的な自費出版まで目的に応じてお受けいたします。自分史、エッセイ集、小説、詩集、画集、写真集、絵本、歌集、遺稿集…。なんなりとお気軽にご相談ください。

プライバシーマーク 使用許諾
ISO 14001 9001 認証取得

野毛印刷

営業企画本部 / 横浜市南区新川町1-2 〒232-0027

☎(045)252-2511

本社 / 横浜市中区相生町5-79 〒231-0012

<http://www.noge.co.jp>

第42回神奈川県美術展 関係者名簿

(平成18年9月13日現在)

神奈川県美術展委員会

委員長	副委員長
原 範行	藤井 稔

委員				
相笠 昌義	岡 信孝	嶋 剛	原田 光	
山梨 俊夫	和田 守弘	今井 陽子	永井鐵太郎	
仙場 右羊	船本 芳雲	村岡 秀男	山田 信次	
二見 研一	松本 浩			

審査員

平面立体				
相笠 昌義	内田あぐり	小泉 俊己	是枝 開	
猿渡紀代子	原田 光	和田 守弘		

工芸				
今井 陽子	岩瀬なほみ	高木 参平	永井鐵太郎	
三好かがり	山崎 和子	由水 常雄		

書				
石坂 雅彦	北見 雨洋	久保田昭子	菅原 壽雄	
仙場 右羊	吉田 春翠	渡部 會山		

写真				
江成 常夫	岡井 耀毅	木村 恵一	常盤とよ子	
前田 利昭	村岡 秀男	山田 信次		

The 42nd Kanagawa Art Exhibition 2006

第42回神奈川県美術展

発行：神奈川県美術展委員会

神奈川県民ホール 事業課内

〒231-0023 横浜市中区山下町3-1

TEL. 045-633-3687

写真撮影：(株)菊屋写真工房

印刷：(株)野毛印刷社

発行：2006年9月13日

神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール
神奈川県